



年間を通して郷土の自然を学ぶ「森の子コレンジャー」活動は、今年度で13期となりました。5月に始動式を迎え、今月はコレンジャーが代々整備を続けているピオトープの自然調査を実施しました。ピオトープとは生き物たちが暮らす場所のことで、コレンジャーでは生物多様性を高めるという目的のもと、谷津田として利用されていた場所を所有者の方に許可を頂いて、水場の再生と光が当たらなくなった林床の一部を整備してきました。パブロレンジャーの「自然のためにやってみませんか」という問いかけに、3期コレンジャーが「やりたい」と答えてくれて始まったピオトープ整備。毎年、現役のコレンジャーも「やりたい」と手を挙げてくれるので継続できています。

コレンジャーによるピオトープ整備は年2回、秋と冬に実施しています。秋の整備は同窓会として卒業生が毎年実施していましたが、去年は雨のため中止となってしまいました。しかし、産卵期の両生類で賑わう様子を久しぶりに卒業生にも見せたいと考え、あらためて同窓会を計画し、3月に無事実施することができました。同窓会には小学校5年生から大学3年生までの7人が参加してくれました。去年は台風などによる大きな被害が無かったので、今回の同窓会ではピオトープの整備はせずに、両生類の卵やおたまじゃくし、鳴き声で賑わうピオトープと一緒に見学した後、自然を紹介しつつ近況を話し合いながら山を登りました。

整備のない同窓会は2回目、1回目はコロナ禍の真ただち中でした。その時参加した卒業生は「整備ができなくて残念だったけれど、懐かしい場所を仲間と歩き、コレンジャーの頃を思い出して嬉しかった」と感想を話してくれました。

今回は参加者全員から「山登りも楽しかったけど、来年はピオトープの整備がやりたい」と要望があり、レンジャーからも「去年は自然を見守る年としたため、今年は必ず整備が必要になります。よろしくお願いします」と話して同窓会を閉会しました。

あの頃と変わらない思いを持ってきている仲間たちと、共に活動する日を心待ちにしながら、今年も現役生に初夏のピオトープを紹介したいと思います。

(加瀬澤)



同窓会（ピオトープ整備）の参加者